

平素は本校教育活動の推進のためにご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、保護者の皆様にはお忙しい中、夏休み前の学校評価にご協力いただき、ありがとうございました。学校評価は児童・保護者・教職員が共通の意識をもち、連携しながら教育活動を進めるために、それぞれの立場でこれまでの取組について見つめ直す手段の一つであり、その結果から見えてくる課題について分析し、よりよい教育の在り方について考えていきたいと思っております。

本号では7月に行いました学校評価アンケートの結果をお知らせします。表面には＜学習面＞、裏面には＜生活面＞を載せています。表のAは「よくできている」Bは「だいたいできている」Cは「あまりできていない」Dは「できていない」を示しています。

【前期 学習面】															
	児 童	A	B	C	D	保護者	A	B	C	D	教職員	A	B	C	D
①	まいにちのがくしゅうのめあてがたっ せいできている。	47.2%	42.2%	9.2%	1.2%	我が子は、学校で学んだことを身に付 けている。	29.2%	64.0%	6.5%	0.3%	確かな学力(思考力・判断力・表現力) が身に付くような実践を行っている。	15.8%	68.4%	15.8%	0.0%
②	せんせいやともだちのはなしをよくき いて、かんがえている。	59.9%	32.3%	5.6%	2.1%	我が子は、人の話をしっかりと聞いて 考えることができている。	25.8%	58.5%	15.4%	0.3%	友達や先生の話しっかりと聞いて考 える習慣をつける取組を行っている。	36.8%	47.4%	15.8%	0.0%
③	じゅぎょうちゅうすすんでじぶんのかん がえをはつげんしている。	45.7%	32.0%	16.3%	5.9%	我が子は進んで自分の考えを話すこ とができている。	25.5%	55.7%	17.8%	0.9%	授業中、子ども達が進んで自分の考えを話せ るような授業づくりを心掛けている。	22.2%	66.7%	11.1%	0.0%
④	よんだり、かいたり、けいさんしたりす るちからがみについている。	56.4%	33.2%	7.4%	3.0%	我が子には、基礎的な学力(読む・書 く・計算する)が身に付いている。	32.6%	56.0%	9.8%	1.5%	基礎的な学力(読む・書く・計算する) を身に付ける取組を行っている。	33.3%	55.6%	11.1%	0.0%
⑤	いえでじぶんからしゅくだいやがくしゅ うをしている。	53.9%	30.1%	12.2%	3.9%	我が子は、自分から家庭学習に取り 組むことができている。	24.0%	48.3%	24.3%	3.4%	家庭学習の習慣が定着するように働 きかけている。	21.1%	52.6%	26.3%	0.0%
⑥	すすんでどくしよをしている。	63.5%	24.3%	8.0%	4.2%	我が家では、本に親しむことができる 環境を整えている。	35.7%	40.3%	19.7%	4.3%	読書の習慣が定着するような働きか けを行っている。	21.1%	57.9%	21.1%	0.0%
⑦	じぶんからすすんでうんどうをしてい る。	63.8%	23.1%	8.9%	4.2%	我が子は進んで運動に取り組んでい る。	39.1%	33.5%	24.6%	2.8%	進んで運動できる工夫を考え、実践し ている。	5.6%	61.1%	33.3%	0.0%

【②「せんせいやともだちのはなしをよくきいて、かんがえている」③「じゅぎょうちゅうすすんでじぶんのかんがえをはつげんしている」の項目より】

「話を聞いて考えること」については、児童の約92％が「よくできている・だいたいできている」と回答しています。学年が上がるにしたがって、授業中話し手に注目して話を聞き、指示を正しく聞き取ったり、聞いたことをもとに考えをまとめたりすることができています。しかし、「進んで発言すること」については「よくできている・だいたいできている」の割合が児童の約77％にとどまっています。ただし、各学級で行われているペア学習やグループ学習等では積極的に話し合い活動に参加する姿も見られるので、全体の場合でも発言できるよう、様々な場面で発言する機会を設定することが必要と考えます。併せて、「いろいろな考えを受容できる学級の雰囲気づくり」や「活発な意見の交流を通して解決できる課題の設定」等を含む学級経営や授業改善についても、引き続き取組を進めていきたいと思います。

【⑤「いえでじぶんからしゅくだいやがくしゅうをしている」の項目より】

「自分から宿題や学習をしている」と回答している児童は約84％いるものの、保護者の方は約72％となっていました。また、教職員の「働きかけを行っている」割合は73％となっています。学校としては家庭と連携を取り、家庭学習(宿題)の習慣化を図るとともに、中学年以降は児童が主体的に取り組むことができる学習内容を考え、『自学自習』に向けた取組についても引き続き考えていきたいと思います。併せて、学校や家庭で児童のがんばりを認め、適切に評価をしていくことで児童のモチベーションの向上を図ってきたいと思います。

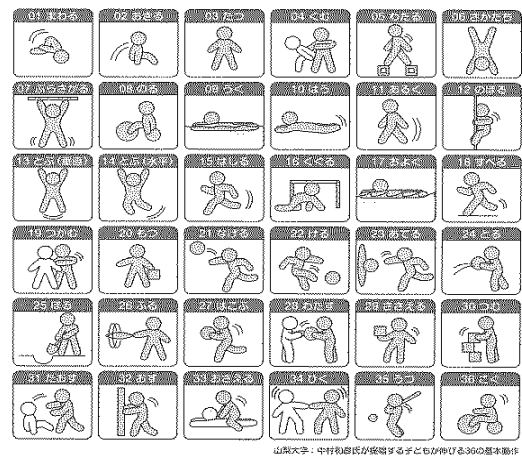


【⑦「じぶんからすすんでうんどうをしている」の項目より】

今年5月に行いました全国体力テストの結果から、本校児童の運動面での課題が浮かんできました。学年にもよりますが、全体的に握力と持久力が低い傾向が見られました。一朝一夕に身に付く力ではありませんが、日常生活の中や体育科の学習の中で様々な動きの運動を意図的に取り入れていきたいと考えています。

身に付けておきたい36の基本動作

人間の基本的な動きは36種類に分類でき、これが基本となって人間の複雑な動きを支えているそうです。幼少期にできるだけたくさん経験し、身に付けることが望ましいと言われています。「危ないから体験させない」のではなく、安全を確保しながら体験させていきたいものです。(参考：平成25年度子どもの体力向上指導者研修会資料より)



【前期 生活面】															
	児 童	A	B	C	D	保護者	A	B	C	D	教職員	A	B	C	D
①	じぶんからすすんであいさつをしている。	62.3%	32.0%	4.5%	1.2%	我が家では、進んで挨拶するように声かけをしている。	42.5%	52.0%	4.9%	0.6%	自分から進んで気持ちのよい挨拶ができるように働きかけている。	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%
②	いえやがっこうのルールをまもっている。	50.7%	41.5%	7.4%	0.3%	我が家では、学校のルールを守るように働きかけている。	34.5%	61.8%	3.7%	0.0%	学級や学校のルールを守る意識を高める取組を行っている。	50.0%	45.0%	5.0%	0.0%
③	そうじやせいりせいとんをきちんとしている。	45.1%	39.2%	14.8%	0.9%	我が家では、身の回りの掃除や整理整頓を自分でするようにしている。	14.2%	46.5%	36.3%	3.1%	自分から進んで掃除や身の回りの整理整頓をするように働きかけ、自らも実践している。	45.0%	50.0%	5.0%	0.0%
④	こまったことは、せんせいやかぞくにそうだんしている。	50.4%	30.6%	13.6%	5.3%	我が家では、子どもの話をしっかり聴くようにしている。	22.8%	66.5%	10.8%	0.0%	子ども達に向き合い、しっかりと話を聴くようにしている。	50.0%	45.0%	5.0%	0.0%
⑤	だれにたいしてもていねいなことばではなしている。	33.5%	43.0%	19.6%	3.9%	我が家では、丁寧な言葉遣いで話すように心掛けている。	15.7%	60.0%	23.4%	0.9%	誰に対しても丁寧な言葉遣いで話すよう指導するとともに、自らも実践している。	40.0%	55.0%	5.0%	0.0%
⑥	にがてなことにもじぶんからとりくんでいる。	45.1%	36.2%	13.9%	4.7%	我が家では、どんなことにも努力する姿勢を大切にしている。	25.2%	63.4%	10.8%	0.6%	子ども達が、苦手なことにも前向きに取り組めるような手立てを、常に意識して実践している。	42.1%	47.4%	10.5%	0.0%
⑦	じぶんのよいところがいえる。	47.5%	31.5%	11.9%	9.2%	我が家では、子どものよさを認め、伝えるようにしている。	35.7%	55.7%	8.0%	0.6%	子どものよさを認め、適切に伝えるようにしている。	42.1%	52.6%	5.3%	0.0%

【①「じぶんからすすんであいさつをしている」の項目より】

児童・保護者・教職員ともに 90％以上が「よくできている・だいたいできている」と回答しています。しかし、挨拶の仕方を見ると、「声が小さく、目を合わせずにしている」「自分から挨拶ができていない」「決まった場所・時間（登校時や教室のみ等）でしかできない」等、まだまだ課題となる実態もあります。挨拶は社会に出た時にもとても大切とされる習慣であり、人と人をつなぐはじめの一步です。教職員はもちろん、家庭や地域の方々にもご協力いただき、気持ちのよい挨拶ができる北白川の子を育てていきたいと考えています。



【⑤「だれにたいしてもていねいなことばではなしている」の項目より】

児童の約76％、保護者の約 75％が「よくできている・だいたいできている」と回答していますが、今回のアンケートの中では実現度が一番低い割合を示しています。人(相手)を大切に作る行動の一つとして「丁寧な言葉遣いで話すこと」が挙げられます。「丁寧な」とは「改まった」言葉遣いということではありません。もちろんTPOに応じて正しい言葉遣いで話すことも大切ですが、何より「相手を思いやった温かい言葉を使って話すこと」ができるかが大切であると考えます。丁寧な言葉遣いを意識することで、やがて言葉以外の行動面にも表れ、良好な人間関係を築くことができると考えています。子どもは周りの大人、友達、メディア等から影響を受けやすい存在です。まずは、私たち大人が相手を思いやった言動ができるよう意識していきたいものです。

【⑥「にがてなことにもじぶんからとりくんでいる」の項目より】

児童の約81％が「よくできている・だいたいできている」と回答していますが、20％近くの児童は苦手なことに向き合うことができていないと感じているようです。誰も苦手なことはできるならやりたくないと思えるのは、当然の事かもしれません。しかしながら、学校の教育課程の中には、各自が得意とする学習内容だけでなく、人によっては難しいと思えるものも含まれています。そんな時でも「まず、やってみること」が大切です。そして、友達や周りの大人のアドバイスや励ましを得て自分なりに努力したことが、その後の自分の自信につながるのだと思います。「がんばったけど、できなかった」ということもあるかもしれませんが、「がんばった事実」こそがとても尊い行動であることを伝えるとともに、少しでもたくさんの「できた」を経験できるよう支援を続けていきたいと考えています。

○今回のアンケートでは、保護者の皆さんに「コミュニケーション能力を育むために、ご家庭で取り組まれていること」について書いていただきました。数多くの記述をありがとうございました。一部になりますが、紹介させていただきます。

- ・1つのことに対してもいろんな考えや、見方、感じ方のあることを伝えるようにしている。
- ・人の気持ちがわかるよう、自分に置きかえて考えるよう声かけをしている。
- ・子どもの話を聞く時に、「なぜそうなったのか」など理由を聴くように心がけている。
- ・自分の考えを伝えるだけでなく、相手の気持ちを想像してやり取りするよう伝えています。
- ・他地域、他学年との交流によりコミュニケーション力が高まると考えており、日帰りキャンプなどに参加させています。
- ・自分の意見を伝えることが重要であると言い聞かせています。
- ・大事なことは目を見て話す。
- ・言葉（会話）は単語ではなく文章として最後まではっきり伝えること。
- ・人の考え方、ものに対するとらえ方は人それぞれでそれを認めるように話している。
- ・親が他人と笑顔でコミュニケーションをしている姿を見せている。
- ・親が答えを言うのではなく、子どもに自分の考えを話す機会をもつようにし、人前で自分の意見が言えるように心掛けている。

他にも「親が進んで挨拶する姿を見せる（子どもにもきちんと挨拶できるようにする）」「テレビを付けないうで話をする時間を設ける」「一緒に遊ぶ」「親が一生懸命聴く」「いろんな家庭・仲間との交流の機会をもつ」「夕食時や就寝前にその日の出来事について家族みんなで話す」「言葉遣いに気をつける」など参考になるご意見をたくさんいただきました。学校生活でも大切にしながら指導に生かしていきたいと思います。

保護者の皆様からいただきましたご意見についても教職員で共通理解を図るとともに、10月8日の「学校運営協議会理事会」でも話題にさせていただきます。お忙しい中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。